

眼 科

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

【到達目標（行動目標）】

- 1) 外来および入院患者を通じて、治療に必要な情報を取得できる。
- 2) 患者から得られた情報を基に、必要な検査を選択できる。
- 3) 視力検査ができ、細隙灯顕微鏡を扱うことができる。
眼底検査は、視神経、黄斑部の観察ができるようになる。
- 4) 眼科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 5) 術前カンファレンスで担当患者の病態、治療方針、問題点などを説明できる。
- 6) 白内障手術の手順を理解し、手術助手を務めることができる。

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には相応しい態度、言葉遣いであること
- 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意すること。
- 4) 欠席、遅刻の場合は医局に届け出ること。正当な理由のない欠席については、卒試の受験資格を与えないこともある。
- 5) 実習で使用した診療情報に関する全ての資料は、院外への持ち出しを禁ずる。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行う。
- 2) 第1週の月曜日に研修グループ（緑内障、網膜、角膜）、指導医を割り当て、実習期間中は各グループ予定に準じて研修すること。受け持ち患者は主治医と共に診察し、主治医の1人として診療に参加する。
- 3) カルテ記載をすべき事柄については、指導医と共に記載する。

【週間スケジュール（1～2週目）】

	午前	午後
月	教授回診 細隙灯顕微鏡・眼底実習	術前カンファレンス 17時00分 眼科医局
火	関連病院実習	17時45分 医局会 眼科医局
水	術後回診 外来または手術室実習	左記に準ずる
木	術後回診 外来または手術室実習	左記に準ずる
金	術後回診 外来または手術室実習	1週目：白内障手術自習 2週目：総括

【週間スケジュール（3～4週目）】

	午前	午後
月	教授回診	術前カンファレンス
火	関連病院実習	医局会参加
水	術後回診 外来または手術室実習	左記に準ずる
木	術後回診 外来または手術室実習	左記に準ずる
金	術後回診 外来または手術室実習	1週目：白内障手術自習 2週目：総括

【評価】

6項目の到達目標が実習中にどの程度達成されたかを評価する。方法は、指導医による全体的な行動（パフォーマンス）の評価、教授回診での患者提示、カンファレンスでのプレゼンテーション、総括での積極性などによる総合評価である（配点は下表の通り）。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	20
カンファレンスでのプレゼンテーション	20
学生用カルテの内容	20
症例発表	20
総括での積極性	20